

V43a **TMTサイエンス検討会の活動報告**

児玉忠恭 (国立天文台ハワイ観測所)、青木和光 (国立天文台)、長尾透 (愛媛大学)、成田憲保 (国立天文台)、本原顕太郎 (東京大学)、吉田直紀 (IPMU)、ほか TMT サイエンス検討会一同

日本天文学会 2010 年春季年会 (広島大学) や tennet で広く参加を呼びかけた、TMT サイエンス検討会が、多くのコミュニティの皆さんの参加のもと 4 月中旬に発足し、大きな括りで 4 つの分野に分かれ、活動を行っている。すなわち、銀河/宇宙論班 (班長: 本原、副班長: 吉田直、計 16 名)、AGN/QSO 班 (班長: 長尾、計 10 名)、星/局所銀河班 (班長: 青木和、計 9 名)、星形成/惑星/太陽系班 (班長: 成田、計 10 名) の 4 つの班である。各班とも 1 ~ 2 ヶ月に一回のペースで検討会を行い、これと平行して同様のペースで班長会も行い、各班の検討進捗状況を把握し、班共通の項目の議論や、班間の連携の議論を行っている。本講演では、各班の活動状況と検討内容の進捗状況を報告し、10 月 4 日、5 日の両日に国立天文台三鷹キャンパスにて開催予定の「TMT サイエンス検討会中間報告会」への参加をコミュニティに広く呼びかける。中間報告会でコミュニティからのフィードバックを受けた上で、年内に検討報告書を完成させ、年度内に出版しコミュニティに配布する予定である。この活動を通して、日本がこれまで主にすばる望遠鏡を用いて切り拓いてきた特長ある研究をベースに、TMT 時代に如何に独自性または国際的競争力のあるサイエンスを展開していくかの戦略を、練り上げて確立していきたいと考える。また TMT 次期観測装置へのサイエンスの観点からの提言も行いたい。